福島県PTA連合会会報
第103号_H29.07.10

福島県PTA連合会

PTA ふくしま 第103号

県連P活動スローガン　子と親とが　共に育つ　PTA 活動を

編集：調査広報委員会　印刷：泉印刷所

●県P連会長あいさつ

つながり合い・支え合う PTA活動のために

福島県ＰＴＡ連合会
会長　小林利明

今年二年目の福島県ＰＴＡ連合会会長をつとめさせて頂きます小林利明です。

今、子どもたちの育ちをとりまく環境は激変しつつあります。いつの世も、社会は変化してきたのですが、ケータイ・スマホ・ライン・ＳＮＳなど、次々に変わっていく情報技術は、子どもたちの生活経験に多大な影響を及ぼしています。いじめ・不登校・ひきこもりなど、親が心配せずにはいられない課題も、減ることはありません。少子高齢化が進み、人口が減少する中で、子どもを育てることは社会全体にとってとても大切な仕事です。

人は社会の中で育ち、生きていくものです。子どもたちの育ちに重要な影響をおよぼすのは、家庭と地域と学校の連携であり、親どうしのつながり、地域社会のつながりなど、相互の協力が欠かせないのです。

このような現代社会の中で、ＰＴＡ活動に関わろうとする時、なかなか思うようにはできないかもしれませんが、大切なことはたった一つです。子どもたちの成長を願って、お互いがつながり合い、支え合い、そして学び合うことです。

私も県Ｐ連会長として責任と自覚を持ち、最後の一年を全うする所存でおりますので、皆様昨年同様よろしくお願い申し上げます。

もくじ

会長あいさつ・１年間の歩み……Ｐ１
広報誌・学校新聞コンクール……Ｐ２
新役員一覧・旧役員代表あいさつ……Ｐ２
国際交流・国内研修報告……Ｐ３
第65回福島県 PTA 研究大会いわき大会の概要 …Ｐ３
親子で考えよう……Ｐ４
福島・水俣交流事業報告……Ｐ５
事務局からのお知らせ……Ｐ６

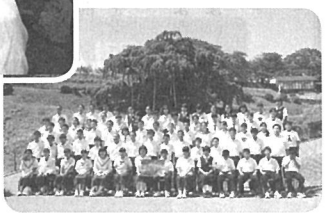
県Ｐ連　１年間の歩み
～こんな活動をしています～

2016年６月22日　第１回理事会

2016年６月22日
小・中別懇談会

2016年７月28日～31日
「水俣との交流事業」
環境創造センターにて

福島県と水俣市の中学生が交流しています。



三春町　滝桜の前にて

2017年１月24日
教育長との懇談・要望

2016年10月15日
県PTA研究大会
郡山ブロック大会
記念講演　詩人　和合亮一氏

今年度はいわき市で行われます

PTA 広報紙・学校新聞コンクール　～おめでとうございます～

福島市立渡利小学校「和多里」

こんな視点で作成しています

福島市立渡利小学校
広報部長　蛭田　恭子

私達の大切な「和多里」が最優秀賞をいただけたことは、とても大きな喜びです。快くアンケートや取材にご協力くださった先生方・児童の皆さんと保護者の方々に心から御礼を申し上げます。

「見て楽しい、読んで面白い和多里」を作る為に工夫している点は、読む方に親しみを感じていただける紙面の配置です。撮り手の愛情溢れる写真と、部員みんなで伸び伸びと意見を出し合って作った記事の楽しさが、初めて目にした方にも伝わり、子ども達の学校生活をより身近に感じていただける事を願っています。

これからも楽しい編集活動を続ける渡利小広報部に、温かいご声援をお願い致します。

福島市立飯野中学校「こもれび」

こんな視点で作成しています

福島市立飯野中学校
前ＰＴＡ会長　松本　敬

この度のコンクールにおきまして、本校のＰＴＡ広報紙「こもれび」が二年連続となる最優秀賞を頂きましたこと、誠に光栄であるとともに、広報委員全員で一丸となって取り組んだ結果に喜びを感じています。

広報紙を作成する上で常に心がけていることは、記事を読む会員の皆さまが、一回見て終わりではなく、二度、三度と読みたくなる広報紙を作ることです。子どもたちが元気よく紙面を飾るようなレイアウト、会員皆さまの話題になるようなアンケート調査など、作成する側、読む側が楽しくなる広報紙作りを常に目指しています。

今後も皆さまに愛され、また楽しいＰＴＡ広報紙を作成してまいりたいと思っています。

第52回県小中学校PTA広報紙コンクール 晴れの受賞校

第52回県小中学校ＰＴＡ広報紙コンクールの審査会は４月24日、福島市の福島民友新聞社で開かれた。

県内の小中学校75校から応募があった。

審査の結果は次の通り。

◇最優秀賞
「和 多 里」（渡利小）
「こもれび」（飯野中）

◇優秀賞
「大 久 保」（大久保小）
「薫だより」（薫小）
「あげつち」（平一小）
「みくわば」（渡利中）

◇入　選
「せいめい」（清明小）
「さ さ や」（笹谷小）
「に　　じ」（東和小）
「はちのす」（白河二小）
「白三だより」（白河三小）
「鶴　　翔」（鶴城小）
「ほおの木」（喜多方二小）
「ひらくぼ」（平四小）
「絆」（郡山ザベリオ学園）
「鈴　　石」（本郷中）
「きたあいづ」（北会津中）

一年間を振り返って

渡部　喜典

昨年度、福島県ＰＴＡ連合会の副会長を務めさせて頂きました。

初めは分からないことばかりで不安を抱えながらの活動を続けていましたが、役員の皆様を始め、多くの皆様のお力添えを頂き、心の中にあった不安はいつの間にか自信へと変化しておりました。

一年間、多くの活動に携わり行動してきたことで、色々と勉強をさせて頂き、そこから多くのことを学び、私自身も人間として成長することが出来て、有意義な一年が送れたと感じております。

今後も、この経験したことを生かし、子供達が成長していく過程において、お役に立てる教育活動を続けていきたいと考えております。

一年間、お世話になりました。

平成29年度 福島県ＰＴＡ連合会役員一覧

▼会　長　小林　利明（いわき市Ｐ連・顧問）
▼副会長　誉田　憲孝（福島市Ｐ連・会長）
〃　橘　文紀（郡山市Ｐ連・会長）
〃　鈴木　辰也（岩瀬地区Ｐ連・顧問）
〃　安藤　敦（会津若松市Ｐ連・会長）
〃　武山　剛（相馬地方Ｐ連・会長）
〃　齋藤　吉成（県小学校長会会長）
〃　福地　憲司（県中学校長会会長）
▼監　事　増子　国安（西白河Ｐ連・会長）
〃　五十嵐　孝（耶麻地区Ｐ連・会長）
〃　箱崎　洋一（いわき市Ｐ連・会長）
▼ＰＴＡ懇談会代表　柳田　武志（伊達地区Ｐ連・会長）
〃　渡部　昌美（南会津郡Ｐ連・会長）
〃　大泉きよみ（母親代表）
▼母親代表　菊地　真弓（県北・福島）
〃　工藤　美和（県中南・郡山）
〃　大竹　妙子（会津・会津若松）
〃　大泉きよみ（浜・いわき）
▼理　事　渡邉　忠一（川俣町Ｐ連・代表）
〃　齋藤　康晴（安達地方Ｐ連・会長）
〃　小平　義広（石川郡Ｐ連・会長）
〃　永山　淳一（田村地方Ｐ連・会長）
〃　佐川　久永（東白川郡Ｐ連・会長）
〃　佐藤　剛（北会津地区Ｐ連・会長）
〃　新井田明夫（両沼地区Ｐ連・会長）
〃　松野　光伸（県北ブロック代表）
〃　安瀬　一正（県中ブロック代表）
〃　大杉　和規（県南ブロック代表）
〃　髙畑健一郎（会津ブロック代表）
〃　川島　敬章（南会津ブロック代表）
〃　佐藤　武（相双ブロック代表）
〃　矢吹　清光（いわきブロック代表）

国際交流・国内研修報告　～渡嘉敷島に行ってきました～

田村市立船引中学校
三年　石井悠希

僕はこの研修で訪れた渡嘉敷島で様々なことを学びました。国立公園に指定されている渡嘉敷島の豊かな自然の中で研修ができたことは、とてもいい経験になりました。

「何もないからこそいい。」この言葉を聞いたとき、便利なものが何もないことでいいことなんてあるのかと思っていました。ですが、村内散策や海洋研修を通して、島全体で自然環境をこわすようなものを少なくすることで自然を守っているのだと感じました。

平和学習では沖縄戦について学びました。まず、ここで地上戦が行われた理由について日本とアメリカのどちらが沖縄を獲得するかが、戦争の行方を変えるほど重大であったことを聞き驚きました。次に、この渡嘉敷島で集団自決から家族で逃れて生き残った島民の方からのお話を聞きました。そして、もし僕の祖父母が戦争で犠牲になっていたら、自分は今ここにいないのではないかと考えると、とても恐ろしく感じました。戦争の悲惨さを痛感し、僕たちの世代でもこのような惨劇を起こしてはならないと強く思いました。

渡嘉敷島での研修で、自然を守り続けていくことや、教訓を語り継いでいくことの大切さを学びました。また、他県の生徒との交流を通して、相互理解が仲間を作るための「鍵」であることもわかりました。

この貴重な経験を活かし、僕は自分の目標に向かって突き進んでいきたいです。

須賀川市立西袋中学校
三年　佐久間　桃

私は学校で、リーダーとして活動することが多くあります。そのリーダーとは、どうあるべきかを考えるため、今回の研修に参加しました。

一日目は緊張していたせいで、班の人ともうまく話すことができませんでした。早く帰りたいと何度も思いました。しかし二日目の体験で、そんな思いは消えてしまいました。その体験とは、班ごとに行った野外炊飯です。カレーを作るという一つの目標に向かって、言葉を交わし、班員と協力することで、昨日まで知らなかった人たちとの絆が生まれたのです。また、平和学習では自決跡地などに行き、沖縄戦の悲惨さを肌で感じました。絶対に忘れてはいけないと、強く思いました。

四日目あたりからは「別れ」を意識し始めました。最後の夜、最後の入浴、最後の朝食…。みんなの心に「別れたくない」という気持ちだけがありました。最後の一日、溢れ出る感情が、班員一人一人の熱い言葉によって、涙に変わりました。誰もが同じ思いで最後の時を過ごしました。涙しました。

沖縄には、助け合うという意味の「ゆいまーる」という言葉があります。この五日間で百九名全員が「ゆいまーる」を実感できたと思います。今回の研修は私にとって思い出に残る、色濃いものでした。そして、たくさんのことを学ばせてくれました。五日間で感じ、学んだことを絶対に忘れず、これからの人生に生かしていきたいです。

第65回福島県PTA研究大会　いわき大会の概要

大会主題

子どもたちの明るい未来を共に創造しよう！
説得力と誇りある力強い大人の背中で！

ふるって
ご参加下さい

1．期　　日　平成29年10月15日（日）
2．会　　場　いわき芸術文化交流館「アリオス」
3．日　　程

9:00	9:30	11:30	13:00	14:00	15:45
受付	分科会	昼食 移動	全体会	記念講演	

4．記念講演　講師　矢内　廣氏（ぴあ代表取締役社長）
5．分科会　1　組織運営　2　研修活動　3　家庭教育
4　健全育成　5　特別支援教育

親子で考えよう

朝食の意味、効果、そして影響

朝食を摂る意味

①朝食を摂ることで体温を上げる

寝ている間に低下した体温を上げて、身体が動き出せる準備をします。

②朝食はエネルギーや栄養素の補給となる

小学生の高学年から中学生にかけては、身体が大人になるために大きく成長する時期です。この時期は、エネルギーやその他の栄養素が人生の中で多く必要となる時期です。朝食は、必要なエネルギーや栄養素を身体に取り入れるための大切な食事です。

私たちの身体は、寝ている間もエネルギーを使っています。そのため、朝にはエネルギーやエネルギーを作るための栄養素が少なくなっています。朝食は、失われたエネルギーや栄養素を補充するという役目を持っています。

基礎代謝量
(何もしなくとも必要な１日当たりのエネルギー)

	男性		女性	
年齢	基準体重 (kg)	基礎代謝量 (kcal ／日)	基準体重 (kg)	基礎代謝量 (kcal ／日)
６～７歳	22.0	980	22.0	920
８～９歳	27.5	1,120	27.2	1,040
10～11歳	35.5	1,330	34.5	1,200
12～14歳	48.0	1,490	46.0	1,360
15～18歳	54.8	1,480	50.6	1,280

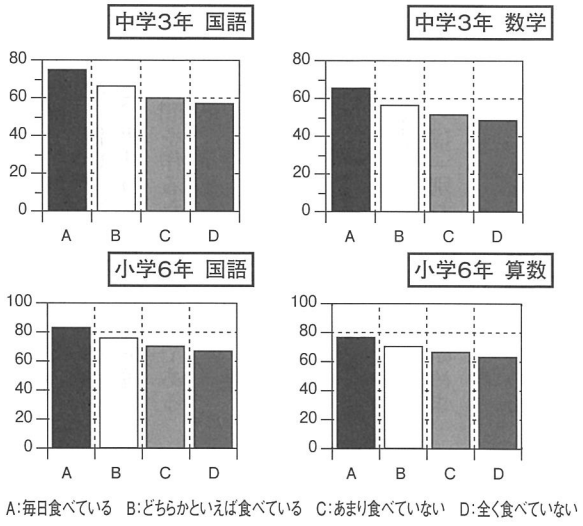
基礎代謝量は、生命を維持するために必要な最低限のエネルギーです。ここに、日々の運動量に合わせたエネルギーが加算されます。

朝食の効果

①脳が働きやすくなる

脳で使われるエネルギーはブドウ糖からしか補充できません。しかし、肝臓では約十二時間分のブドウ糖しか蓄えられませんので、朝食を欠食すると、前日の夕食から昼食まで十二時間以上供給されないことになります。脳が十分に働くことができませんから、午前中の勉強が頭に入りにくい結果につながります。

朝食の摂取と学力調査の平均正答率との関係
文部科学省「平成24年度全国学力・学習状況調査　A問題」



（※ B問題についても同様の結果でした。）

②生活習慣病の防止にもつながる

「朝食を摂らなかった時には、昼食や夕食をたくさん摂ればいいのでは」と思う人がいるかもしれません。しかし、欠食した分を昼食や夕食で補うなど一日のエネルギー摂取量を同じにしても、食事回数が少なくなるほど体脂肪の蓄積が増加し、血清コレステロールや中性脂肪が高まります。その結果、肥満や脂質異状症の原因となることもあるのです。

③運動能力・体力のアップにも効果を発揮する

文部科学省による全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果にも、朝ごはんの効果が表れています。

④便秘の予防にも関係している

よく噛んで食べることは、脳や消化器官を目覚めさせます。胃に食物が送り込まれると小腸や大腸が動き始め、朝の排便へとつながります。

こ食の影響

現代の子どもの食の問題点として「こ食」がよく話題に上ります。この「こ食」には次のような様々な種類があります。

「孤食」一人で食べる
「個食」自分の好きな物を各各が食べる
「固食」固定したメニューしか食べない
「小食」食べる量が少ない
「粉食」パンやパスタなどの粉物を主食にする

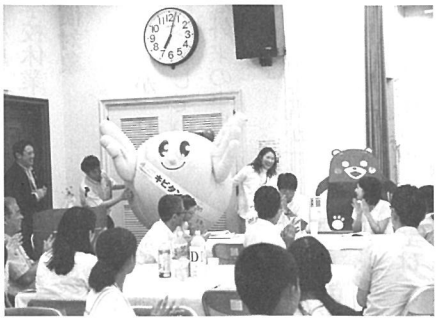
こうした「こ食」を続けることで様々な影響が現れます。例えば、いつも一人で市販（無添加ではない）のハンバーガーばかりを食べていた場合には、①栄養のバランスが偏る ②会話をする機会が減り、発想力や表現力が低下する ③食品中の化学物質の影響で、脳の機能がうまく働かなくなる障害を起こし、興奮しやすく衝動的な行動が起きやすくなる ④オメガ6脂肪酸やトランス脂肪酸の過剰摂取により、かんしゃくを起こしやすくなる 等の障害が現れやすいと言われています。食品に含まれる化学物質の影響は、子どもであればあるほど現れやすいのも事実なのです。保護者にとって確かに朝は忙しい時間であることは間違いありませんが、お子さんの将来のためには、バランスのよい（日本食など）朝食を準備して、また、夕食もできるだけ一緒に食べることにもう少し目を向け実践する必要があると言えます。

平成28年度　福島・水俣交流事業報告

1日目　7月28日

開校式　会長あいさつ

歓迎夕食会　歓迎のことば


歓迎夕食会　キビタン登場

2日目　7月29日

富岡町立学校訪問（富岡二中校長講話）

福島県環境創造センターでの放射線研修

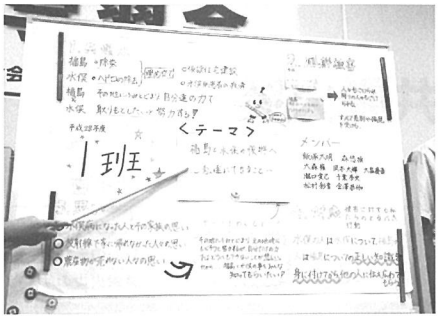
3日目　7月30日

JAふくしま未来モニタリング検査場見学

果樹農家のお話（安齋果樹園）

4日目　7月31日

グループ発表会



熟議の足跡

見送り

福島県と水俣市の中学生の交流事業は平成25年度より行っています。

安全互助会から

常日頃より、福島県ＰＴＡ安全互助会に対し、ご理解とご協力をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

万が一、事故が発生したら

①学校に連絡してください。

【学童のケガ】

学校の管理下外での、急激かつ偶然な、外来の事故によるけがを補償します。

※入院、通院の場合、治療期間が七日以上の場合に対象（事故日から治療終了まで七日以上。治療回数ではない）

※低温火傷、腱鞘炎、疲労骨折などは、急激かつ偶然な外来の事故には該当しないため対象外

※学校管理下の登下校中（自宅より校門前まで）、学校休業中の部活動でのケガは補償対象

【ＰＴＡ会員のけが】

ＰＴＡ会員（含む学童）が、ＰＴＡ主催・共催行事に参加している時の急激かつ偶然な外来の事故によるケガを補償します。

※入院、通院の場合、治療期間が一日から対象

※ＰＴＡ行事の資料、計画書（事故日が記載されたもの）を添付のこと

・ＰＴＡ奉仕作業中のケガ

・ＰＴＡ球技大会の練習中のケガ

・ＰＴＡ行事に参加するための往復途上のケガ　など

②保険金の請求は面倒がらずに

医療費の無料化が進み、市町村によって違いはあるものの窓口での支払いの必要がなくなってきています。しかし、本制度は、あくまで保険制度で、医療費とは別に支払われるものなので、面倒がらずに請求手続きをしてください。

③賠償事故の不明な点は問い合わせを

学童、ＰＴＡ会員の賠償事故の補償については、いろいろなケースがありますので、お問い合わせください。

※・自転車運転中、停車中の車にぶつかってキズをつけた。

・学校の休み時間中に友達とふざけていて教室のガラスを割った。（学校側の管理に問題がない場合）

・ＰＴＡソフトボール大会中、打球が校舎の窓ガラスを割った　など

④事故報告について

○傷害事故、賠償事故の報告については、ケガをした日・事故が発生した日が基準日となります。

○「事故報告書」の住所や氏名の「フリガナ」を必ずご記入ください。

⑤他の保険に加入している場合

○傷害事故については、加入している保険会社からそれぞれに保険金が支払われますので、本会にも忘れず請求してください。

○賠償事故については、他の賠償責任保険に加入している場合は、各保険で損害賠償を按分して支払うことになります。

したがって、賠償事故については、他の賠償責任保険契約の有無についての確認をお願いしています。

編集後記

平成二十五年度から始まった「水俣との交流事業」も今年度で五年目を迎えます。今年度は、この事業のまとめとしてこれまで参加した生徒を対象に希望者を募り交流会を実施する予定です。

交流会の様子等についてはＨＰや会報等で紹介していきたいと思っています。　（Ｈ・Ｓ）

http://www.fukushimaken-pta.jp

※年間三回発行される「ＰＴＡふくしま」もホームページで見ることができます。

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言！　共栄火災

サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、
安心のチカラでそっと支えるサイ。
共栄火災のサイ吉です。

共栄火災海上保険株式会社　〒960-0231　福島県福島市飯坂町平野字三枚長 1-1　TEL.(024)554-3006　www.kyoeikasai.co.jp